

# 第10回市民学校

第十回市民学校が、五月十一日から二十九日まで五回にわたって大篠公民館で開かれました。  
広報では、都合により受講できなかった方のために、その一部を取り上げて掲載します。

## ゆらぐ内外情勢

高知県婦人問題アドバイザー 品原 淳次郎氏

日本が金持ちになり、世界からうらやましがられたり、恨まられたりいろいろと問題が起きていますが、日本が、日本人がこれからどのように進んでいかな

ればならないかを考えてみたいと思います。日本の近代の歴史は、武家政治・鎖国の時代から、世界に門戸を開こうとした明治維新によってその幕が開けられました。

続いて、日本に、また世界中にも大きな変革をもたらしたのが第二次世界大戦でした。日本の近代化の大変革は、まず明治維新であり、次に大戦に敗れ、民主主義という新しい制度・考え方が入ってきたことでした。

そして、今、日本は新しい変革の時代に入ろうとしています。

それは、もう立ち上がることはできないだろうと言われて

た第二次世界大戦の敗戦の廃きよから不死鳥のようによみがえり、あれよあれよという間に、大國アメリカ合衆国と対等の経済力を身につけるようになりました。

ところが、世界から日本を見る目がだんだん厳しくなっており、日本人の体質、文化レベルが普通の先進国並みではないのではないか、少しおかしいのではないかと思われるようになり、いかと不可解な人種で、何をすべきかわからないと見られるようになったのです。状況は違いますが、日本を取りまく世界の目は昭和の初めと同じようになっています。

リクルート、消費税、参議院議員選挙と今までなかった国内

の問題も起こってきました。だから、第三の革命「平成維新」が起こるのではないかと考えるのです。まだ何が起ころるか、よくはわかっていませんが、世界的に見ても何かが起こりそうな様子が出てきています。

第二次大戦後の世界は、社会主義と民主主義の東西に分かれ、にらみ合いを続けてきましたが、ベルリンの壁の崩壊など東欧諸國の民主化への動きにより、東と西が一心同体になりつつあります。東西の緊張を起こしていったアメリカとソ連の核兵力を筆頭とする軍勢力も、一昨年あたりから次第に解消していることと交渉が進められています。

東西対立が消えても、国というものはどこかで競い合ったり、いがみ合ったりするものです。お互いの弱いところ、困っているところを助け合うように、いろいろな国と手を握り合うことが必要になってきます。これからの日本は、もしものときにどこへ駆け込み、助けを求めればよいのか。あるいは、友を呼び寄せることができるのでしょうか。

今までは西側の強力な一員で

り払われ、次第に平和になり、手をつなぐ相手は誰かという選択の時代に入ったときに、これまでのような日本の状況であって果たしてこれが幸せな国作りになるのかを考えなければなりません。

平成維新は、世界の中で日本がどのように日本の政治経済を立て直さなければならぬかという問題を抱え込んでいるということになるのです。

このように厳しい日本ではありませんが、世界の先進国の中で、最も平穩であり豊かな国であり、やろうと思えばやれる能力を持った優れた国であることは間違いありません。ただ、見る心を変え、もっと国民の中の弱み、世界の中の弱みに手をさしのべる国になれば、やり方によっては日本はさらに幸せになれる力を持っていると思います。

中央公民館では、市民学校の講演の録音テープを保存しており、希望者には貸し出しも行っています。

テープの貸し出しを希望する方は、中央公民館(南国市大楠 甲二二七 ☎099498)までお申し込みください。

# 国市民学校

